



六  
百  
年  
目  
の  
姫  
君

R-18

六百年目の姫君



ちようぎ

国広、  
これはお酒だよ

何飲んでるの？

人の子達が  
飲んでたから  
少し頂いたね





ちよっと  
ちようだい

だめだ  
子供が  
飲むもん  
じゃない

子供じゃ  
ないもん

く  
い  
い

や  
あ  
あ  
あ



こ  
ら

誰が  
いじわる  
だって  
この  
ちびすけ



ほ  
ら  
も  
う  
無  
い  
な

は  
は

い  
じ  
わ  
る  
!

本  
歌  
な  
の  
に  
!



そ  
ら  
み  
ろ  
お  
前  
に  
は  
ま  
だ  
早  
い

に  
に  
が  
い



そんな日は  
来ないか

俺はもうすぐ  
主と戦場へ行く  
主の黄泉の供として



いつかお前とも

盃を交わせる日が  
来るといいのだけれど



俺の墓標として  
頭長様はお前を打つよう  
國廣様に  
命じたのだから

ちよんぎ！



大きくなったら  
俺のお姫さまに  
なってくれる？

…は？



だからね  
大きくなったら  
ちよぎに  
お姫さまに  
なってほしいの

人の立派な殿方は  
綺麗なお姫さまを  
娶るんだって  
他の付喪から  
聞いたの



ははははは

お、俺が  
姫君だって?!

まよに  
傑作だ

笑わなぞぞぞ



俺を娶ろうなんて  
いい度胸だ

立派な付喪に  
おなり

そのとき  
考えてやろう



いじわる  
ちよぎ!

いいだろう

本歌さま!

はいはい  
俺の可愛い写し君

ちようぎ

長義

二度と会うことは  
かなわないだろうが  
俺はいつでもお前を  
愛しく想っているよ

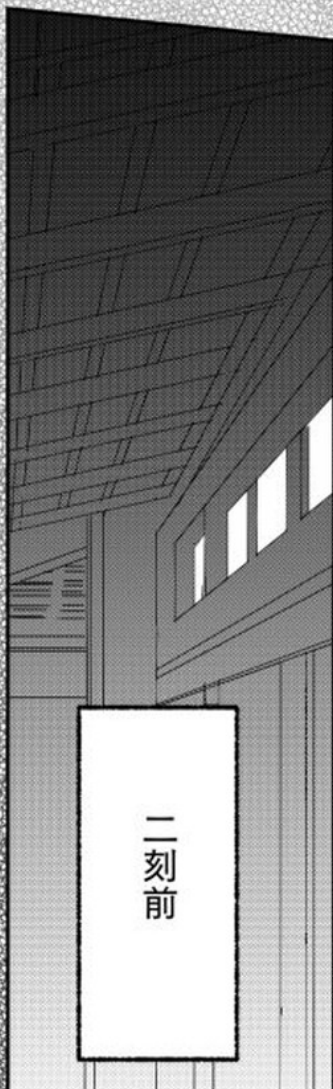
俺の写し

国広  
俺がいなくなっても  
強く生きてくれ





どうしてこの男は  
あの子と同じ眼をしているんだ



二刻前



酒でも飲みながら  
話さないか



こんな遅くに  
不寐なんじゃないか？

……

これから  
寝ようと  
してたんだけど

まだ9時半だから  
大丈夫かと  
思ったんだが

大体何で  
お前と盃を  
交わさないとい  
けないんだよ

日中は俺のこと  
避けてるだろ

避けてない

そうか

いきなり来て  
すまなかつたな

待てよ

お前も酒の味が  
わかるように  
なったとはな

いいだろう  
入れよ

たまには寝酒も  
悪くない

：じゃあ  
失礼する

トニ...

ははは



ちようぎ  
ちようぎって

親鳥についでくるみたいに  
いつもくつついてきてな  
お前

…へえ

「お姫様になってくれ」  
なんて言うから  
ごっこ遊びにも  
付き合ってたんだ

覚えてないだろ

そうだな



あははっ  
そんなお前が  
酒持ってたやってくる  
なんてな

なあ

持ってきた俺が言うのも  
なんだが  
飲みすぎだ

スッ

?



あのときもこうして  
ひつついてきたから

口に付いた酒を  
舐めさせて  
やったんだ

そしたら

「苦い」って  
洗い顔してたな

覚えてるか?





おい

冗談も  
いい加減に



んっ

ぐちゃっ

はっ



んっ  
どげっ!!

ぐん



んッ

ちよつと

ちよつと

偽物くん  
何を

しちや



ふざけてない

お前が言ったんだ  
立派な付喪になったら  
娶られてやるって



お前

何なんだよ

悪ふざけも  
大概にしろよ



考えてやるって  
言ったんだ!!

お前に  
娶られてやるなんて  
言っていない

そもそも  
いつの話だ!  
何百年も前だろ!



最後に  
小さな写しと  
遊んでやろうと  
思ったんだ

あのときは  
戦が始まれば  
もう二度と会うことはない





ふ、なんだか  
酔ってたのか

本歌さまだなんて

(とろ...)

随分俺も  
酔ってるな

そうだな  
約束を無下に  
するようなことを  
言ったのは  
すまないね

こんなに立派になって

六百年前の  
幼子に戻って  
しまったのか  
お前

仕方ないな  
ちよつとだけなら  
付き合つてやろう

なんて

本歌さま

なんだ  
ちびすけくん

俺の姫君に  
なつてくれないか

はは  
姫君つてお前  
あのとときと  
変わんないじゃないか

スルツ

スルツ

!!

俺はもう  
幼い写しじゃないぞ

本歌さま

：お前が  
口吸いなんて  
するから

に、にせものく

ちよっ



ちようぎ

さつき廊下  
通ったらね

よく見えなかったけど  
暗いお部屋のなかで  
泣かせる人が女の  
男の人が泣かせる

人の子って  
なんでそんなこと  
するの？  
こわかった

長義



…大きくなったら  
お前にもわかるよ

今教えて  
くれないの？

今のお前には  
わからないよ



ふふっ  
そんなことで  
怖がってたら  
立派な付喪に  
なれないよ

人の  
営みだ

なにそれ



最初からそのつもりで  
部屋に来たんだろ

娶られてやる  
つもりはないが  
やることやって  
早く出てけよ

思ったより  
抵抗しないんだな

ちゅっ

ちゅっ

中……  
やっぱ  
キツいな

ぐんっ

ひゃっ

あぁ

ちゅっ

あぁ

ちゅっ

ふぁ

ぐんっ

ちゅっ

ちゅっ

んぁ

あ

ちゅっ

ちゅっ





うう

あ、あんなに可愛かったのに  
国広

こわあまよ

泣…!?



泣くほど嫌だったか  
すまん  
性急すぎたかも  
しれない

泣かせて  
しまった

泣くタイプの  
本歌か

痛かったか

うるさい

昔話なんて  
するんじゃない  
なかった

出てけ

俺は



お前が俺を  
覚えてくれたのが  
嬉しかった

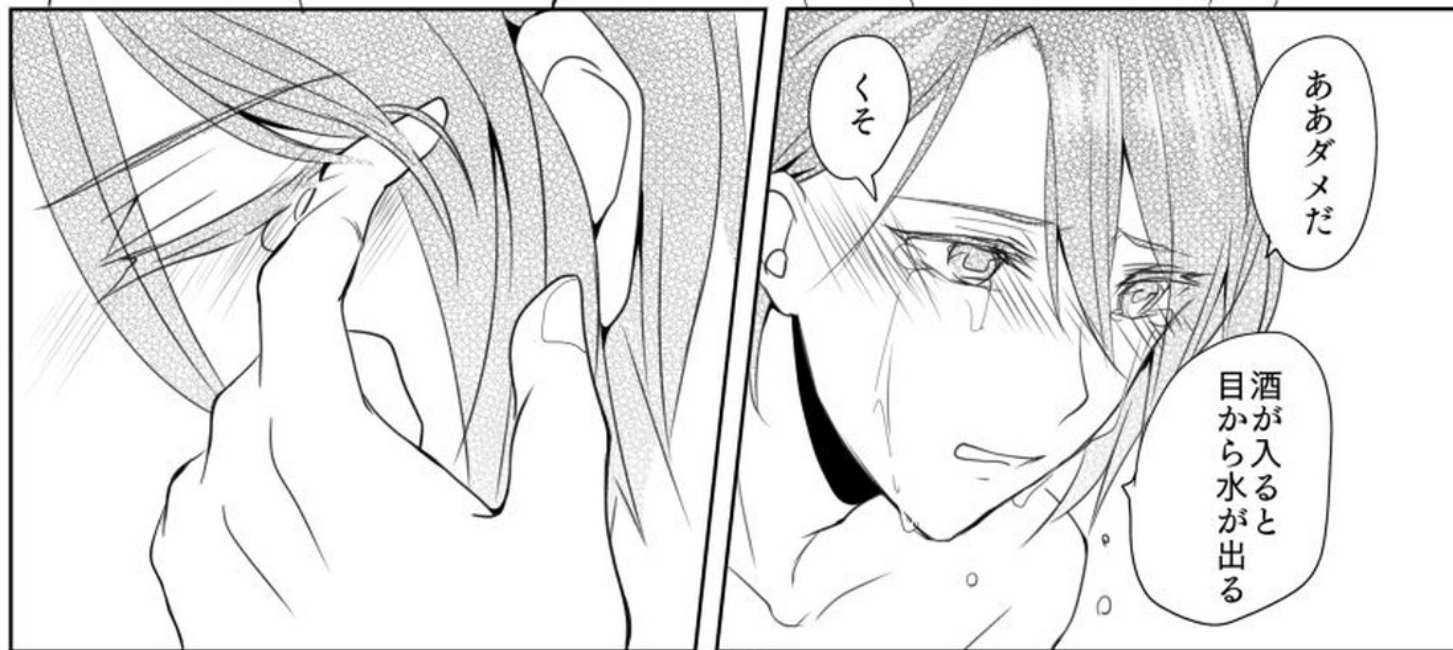
すまない  
言葉が  
足らなくて

けど

今は  
幼子のよう  
に接してほ  
しくない  
気持ちもあ  
って

今の俺は  
お前にとって  
は写しだろ  
うが  
一振り  
の男として  
見てほ  
しかった





新しい関係って  
そのパンパンに  
張ったソレを  
なんとかする関係か

まあ：  
それも含めて  
できれば

素直だな  
お前

仕方ないな

そのまま帰るわけにも  
いかないだろう

続き：  
相手してやるよ

えっ









ビク  
ビクッ

あ!!

ナ  
ゆッ

あっあっ  
ナッ

あっ  
ナッ

しゅ  
ぬちゅッ

しゅゅッ

もっ  
ナッ

あ、あ、あ  
出ちゅ、出ちゅッ

出してらさぞ  
長義

あッ

あッ

ビクッ

しゅゅ

ぬちゅ

ビクッ

あ、う、あッ

あッ



感じてくれたんだな  
長義

はあうう

はあ



あ、あやあ  
まだ、とま  
ちゅとま

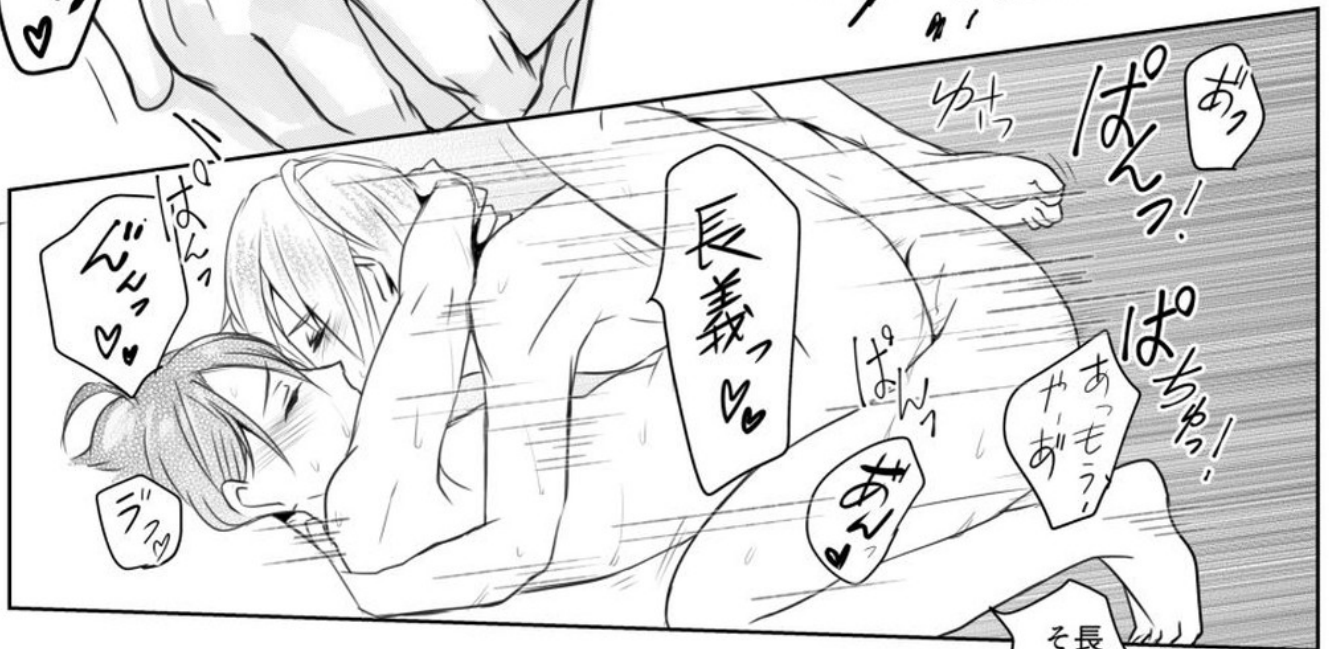
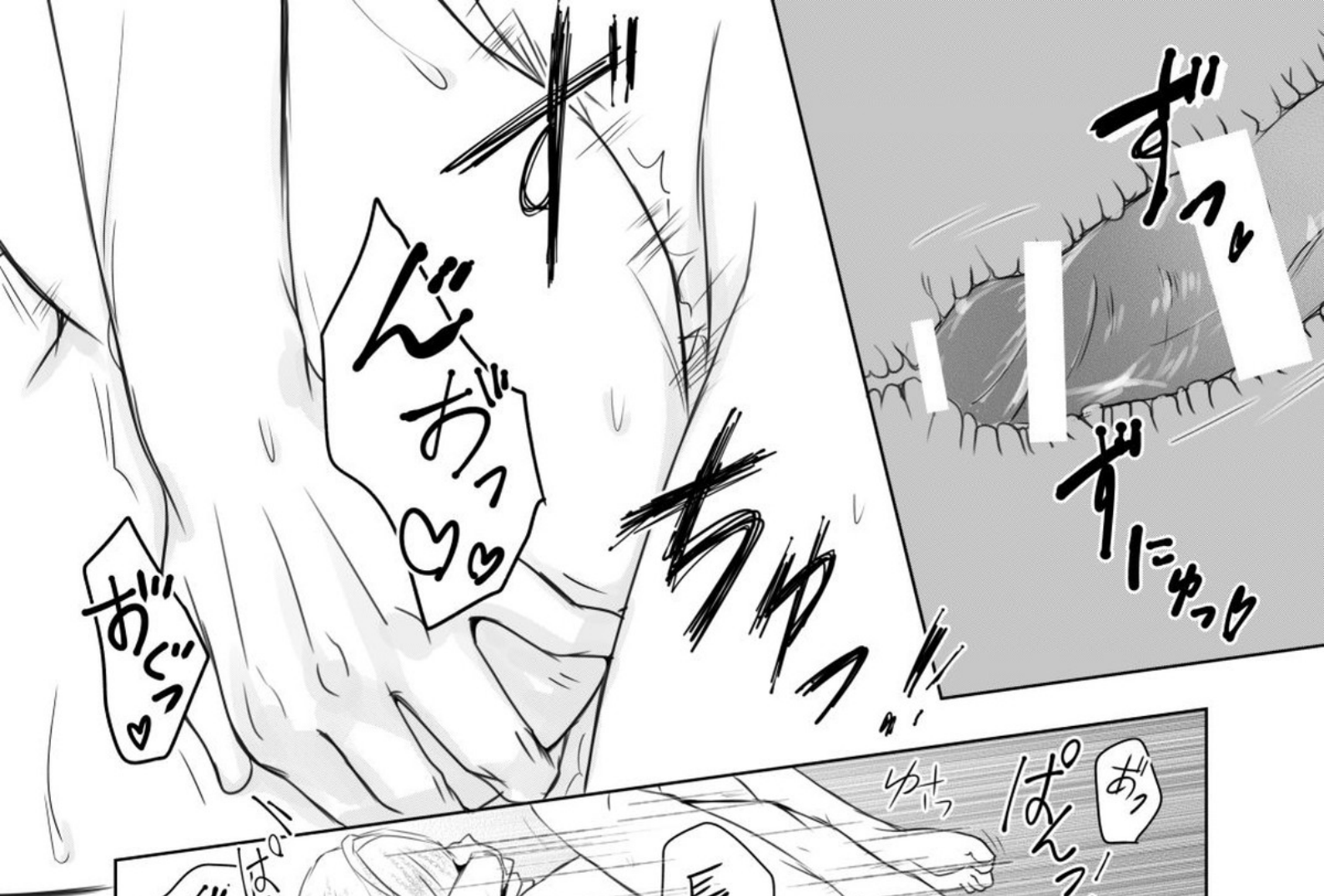
すごいな...

うねって  
絡みついてくる

あやあ  
ああ  
あ

ちゅん  
ちゅん  
ちゅん

ちゅん











次に会うときは

抱きしめてあげるから



懐かしい体温

今日は何でこんなに昔を思い出してしまっただろう

俺はこいつから名前を奪い返さなければならぬのに

なあ  
長義

長義

寝てしまったか



長義



姫君

俺の

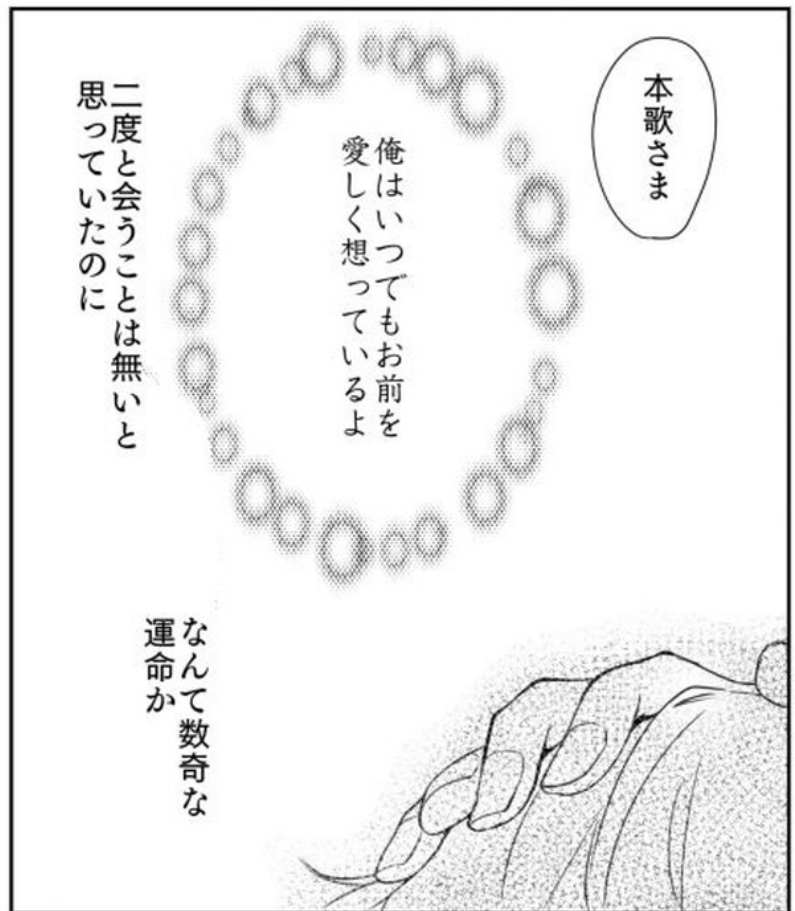
やっぱり俺は  
お前のその眼に  
弱いんだ

二度と会うことは無いと  
思っていたのに

本歌さま

俺はいつでもお前を  
愛しく想っているよ

なんて数奇な  
運命か



こんにちは、ふっきんです。

この度は本をお手に取ってくださりありがとうございました。  
くにちよぎの本はこれで二冊めで今回は18禁です。  
割と久しぶりに18禁描いたのですがめちゃくちゃエネルギー使いました。  
作中では書けなかったのですが、ちび国広君の布は  
頭を打って泣いてる写しのために本歌が盡力で編んであげてたら  
可愛いなあなんて思って描いてました。  
それではまたお会いできるのを楽しみにしております。

ふっきん

発行 令和元年七月十四日  
発行元 空想ルミナスボックス  
発行者 ふっきん  
twitter 666pack\_666  
Pixiv 14060798  
mail karakararinpun911@gmail.com  
印刷 金沢印刷さま

※無断転載、複製、SNSへの発信を含むWebのアップロードを一切禁止します。  
※オークション、フリマアプリなどへの出品は禁止いたします。